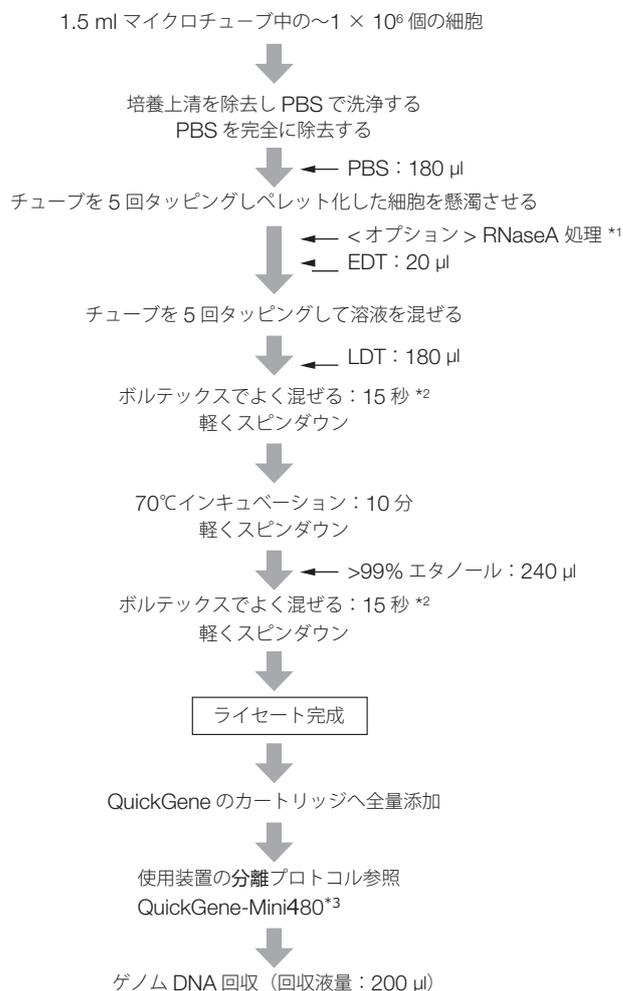


DG-1

ヒト HepG2培養細胞からのゲノムDNA分離

プロトコル



*1 RNaseA : 20 µl
チューブを 5 回タッピングして溶液を混ぜる。
軽くスピンドアウン
常温で 2 分間放置

*2 ボルテックスで完全に混ぜる
(最大回転数)
ボルテックスで混合が不十分ならば、タッピング、ピペッティングあるいは転倒混和を使用。

*3 本事例は旧機種で取得したデータも含まれます。
その他 QuickGene シリーズでもこのプロトコルをご参考頂けます。

結果

電気泳動図

データなし

ゲノム DNA の収量

HepG2 細胞の数	収量 (µg)
5 × 10 ⁵ 個	5.2

タンパク質の混入 : A260/280

HepG2 細胞の数	A260/280
5 × 10 ⁵ 個	1.7

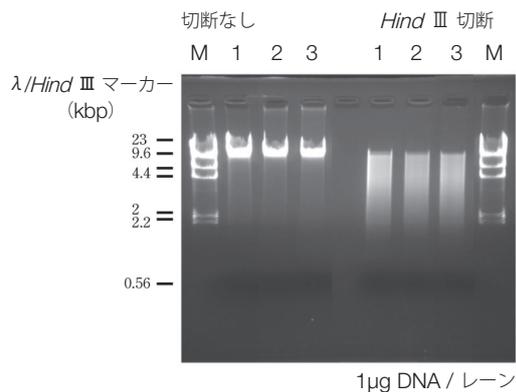
カオトロピック塩の混入 : A260/230

データなし

■ その他

● 制限酵素切断

QuickGene 分離システムと試薬を用いて数種の細胞株から分離されたゲノム DNA の *Hind* III 制限酵素切断断片の AGE



QuickGene-810 (自動核酸分離システム) および QuickGene DNA tissue kit S を用いて分離したゲノム DNA が *Hind* III 制限酵素で効果的に切断された。

M : λ /*Hind* III digest

1 : HepG2 細胞株からのゲノム DNA (0.5 x 10⁶ 個の細胞)

2 : Huh6 細胞株からのゲノム DNA (0.5 x 10⁶ 個の細胞)

3 : Huh7 細胞株からのゲノム DNA (0.5 x 10⁶ 個の細胞)

■ 共通プロトコルサンプル

ラット PC-12 培養細胞、マウス ES 培養細胞